



J.M.J.A. News

日本マスターズ柔道

2006年3月1日 第2号

日本マスターズ柔道協会

〒157-0063

東京都世田谷区粕谷3-30-1

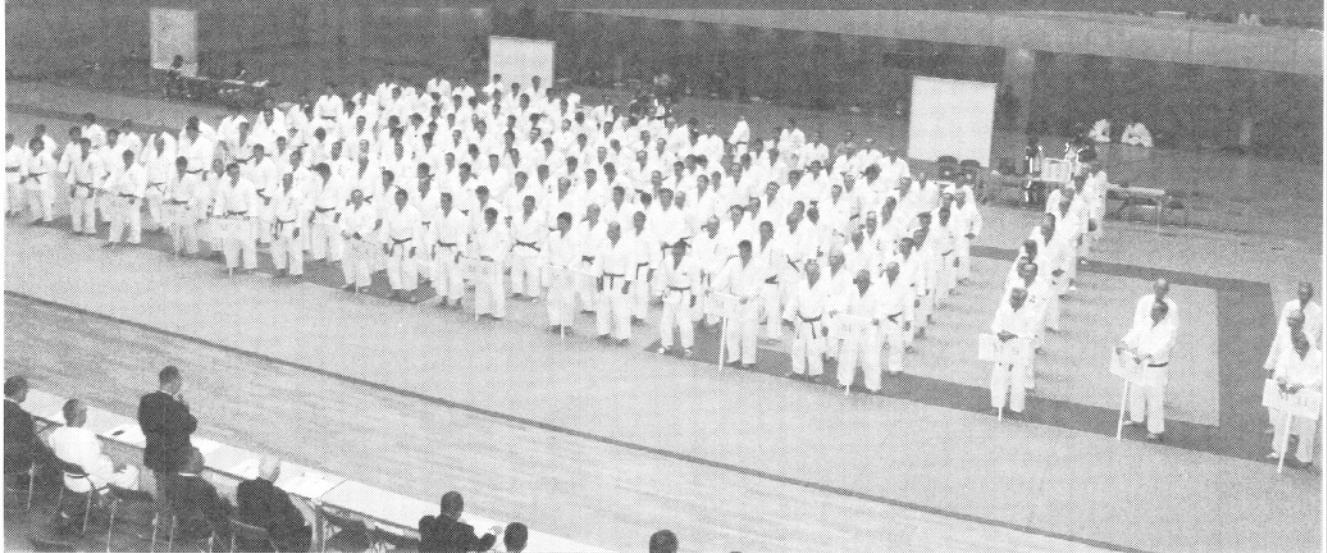
電話03(3326)3333

FAX 03(3305)7301

http://jamja.hp.infoseek.co.jp/

発行 会長 野口宏水

第2回埼玉・上尾大会 一段と交流の輪広がる



大会開会式（体重別試合）の様相 （宮本斗成会員撮影）

第二回大会を振り返って

会長 野口宏水



お陰を以ちまして昨年11月25日より27日までの3日間

埼玉県立上尾武道館に於いて開催いたしました第二回大会は 参加者総数 二百七十九名 延べ四百六十余名と多数の参加を得て大成功裡に終了いたしました 真に喜びに堪えません。

年代別に見ますと 30代63名 40代69名 50代55名 60代53名 70代23名 80代3名 年令不詳13名（形のみ参加その他）合計279名（M263名F16名）と年代はバランスのとれた構成となっておりますが地区別にみますと 北海道3名 東北23名 関東114名 東京65名 北信越4名 東海32名 近畿20名 中国3名 四国3名 九州7名 外国（ニュージーランド）2名 不明3名 となっております 都道府県別に見ても 東京65名 埼玉61名 神奈川22名 愛知16名 千葉・静岡14名 栃木10名と

開催地に比較的近いこともあって多いのは当然といえば当然といえますが 反面参加0名の県が15県あり 次回以降の課題といえます。

ともあれ 大会は 主管をお願いいたしました埼玉県柔道連盟（会長蓮見弘様）の競技役員皆様の 大会会場の確保から大会運営・決算に至るまで 前年の国体開催の大成功のご経験を存分に発揮して戴いたこと、並びに、「生涯柔道を通してお互いの健康と長寿の交歓」を合い言葉に 自分史に豊かな人生を歩いているという貴重な一ページを書き加えることの楽しさを味わわんと 形に試合にと自主的に出場された参加者の並みではない柔道愛好の精神により 次の大会への明るい展望を抱くことができました。本当に有難うございました。

第二回大会でも第一回と同様3日間開会式を行い その都度熱意溢れた代表者による選手宣誓を行いました。式は埼玉県立幸手高校柔道部監督（全国高体連事務局）小池雅彦氏（第五回世界講道館大会M3100KG級シルバーマダリスト・当協会理事）による明快

な名司会により進行しました。

宣誓（大会初日）

我々形演技者一同は形の重要性を認識し、柔道精神と技の理合を理解・体得し、その表現力を競い合うことを誓います。

平成17年11月25日

形代表 保科 素

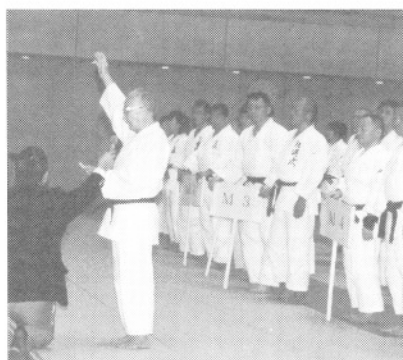


第二回マスターズ柔道大会が開催されるに当り、柔道をこ

よなく愛する人々が相集い嘉納師範の遺訓に明記されている如く、「身体を鍛え、技を磨くと共に心を磨く」ことが柔道修行の目的であることを心に強く刻みまして、正々堂々と戦うことを誓います。

平成17年11月26日

選手代表 宮崎隆夫



（筆者註）昨年6月第七回世界カナダ・ミシソーガ大会にて、開会式直後の全選手・全役員・全観衆注目のM1173 KG級の模範試合で、見事な燕返しでカナダの選手を畳に沈め、拍手喝采を浴びて日本柔道にあり！第六回世界ウィーン大会M1073 KG級にてゴールドメダリスト。理事81才）

宣誓（大会最終日）

我々マスターズ柔道の普及と練成に邁進する選手一同は正々堂々大会に参加することを誓います。

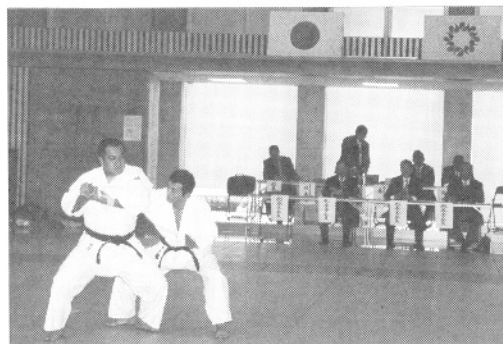
平成17年11月27日

選手代表 安河内 浩



2回の不運な怪我の時以外、世界マスターズ 全国 都柔連 城西四地区 道友会等全の大会に出場の常連 大の柔道愛好家。相談役）

初日は形。



極の形 金メダルの演技（渡辺・甲斐組：宮崎県）

投の形を除く六つの形に34組が出場。10月16日（日）講道館にて開催された全日本形競技大会直後のマスターズ大会だけに、もっと多くの出場者を期待したが、やゝ期待外れの感あり。

その中であって、全日本形競技大会で優勝されている保科素・横山悦子・大森千草を含め、上位入賞されている

加古君子 大宮民子 小川さとみ 今立篤子 黒田美千子 長崎桂子 佐藤良吉（順不同）（小生事野口宏水も東京都代表で出場の栄あり）の諸先生方のご出場は心強い限りでした。また、世界マスターズでも出場・入賞されており、今回も出場・入賞されている真砂都留夫 家亀岩男 大矢秀昭 安河内浩 清水正敬（順不同）等々の各出場者のご健在も称えたい。形と乱取試合は不可離の関係であることから、マスターズ年代として、更に磨きをかけ、本大会に出場することにより、更に技の理合を体得し、修行し続けて行きたいものです。



形で大活躍の女性群 左から長崎、黒田、今立、加古、横山、大森の各選手

二日目は 年代別体重別個人戦。出場者 M 261名 F 15名 合計276名。昨年の190名に対して約百名増は 順調に進展していると思っています。

この合計に 初日の形34組 68名 三日目の年代別体重無差別個人戦51名 団体戦6チーム66名を加えた延べ総出場者は461名となります。すなわち、自費による自主参加者、その参加者を支えた家族や大会関係者、審査・審判の先生方そして大会を賛同下さり賛助・広告・後援をいただいた個人・法人・団体等の皆様方が三位一体となり マスターズ世代の潜在力をカタチにして 大会は大成功で 次回以降への大きな期待を感じさせた大会でありました。

特筆すべきは 最終日の体重無差別個人戦後の団体戦でした。第一回大会では M・Fとも3人戦で Mは3人合計年令180才 Fは年令制限無しでした。第二回大会ではFは参加なく残念でしたが、Mは30代以上70代まで各年代2人ずつの合計10人制。年代こそ違え同じ道場で『同じカマのメシを食った』先輩後輩で

構成して 今回は6チームが 出場。3日間の大会を カシマシイ応援合戦で締め括りました。年代毎2名ずつ集めるのはなかなか難しく、小生が出場した慶友倶楽部は 幸い優勝はしましたが 慶友関係は4人のみで 残り6人の内1人欠場 5人のうち大上四将 熊井五将は学生時代では宿敵の早稲田OBの援軍という有り様でした。2位は兵庫から精鋭を揃えた柔錬会 3位は昨年の覇者丸の内柔道倶楽部と地元埼玉柔接同好会。接戦の末入賞は逃したあとの2チームは 赤門柔道倶楽部を核とする本郷倶楽部と、和気藹々で柔道外でもまとまり



団体戦 決勝戦 左：柔錬会 右：慶友倶楽部
結果は4対4 内容差で慶友倶楽部でした

抜群の東京都庁倶楽部。試合中は真剣 体の動きは俣ならずとはいえ 終つては お互いを労わり合つて笑つて握手を交し合うマスターズ仲間でした。



戦い終わって、大将同士の握手

最後にSUPER・MARS TERSを紹介して筆を擱きます。上記の通り 第二回大会の出場者は 279名 延べ461名でその中で 全ての種目に出場されたマスターズは只一人のみです。安河内 浩医学博士(当協会相談役)です。初日形に出場 極の形でブロンズメダルを獲得 中日はM973KG級でシルバー 最終日は無差別M9でまたブロンズメダルを獲得 そして引き続いで団体戦大将で2戦。本当にご苦労様でした。生涯柔

道 生涯現役 我がマスターズの鑑 いつまでもお元気で 畳の上に立つて下さい。

第二回大会のメダリストと団体戦出場者は次の通りです

形の部

投の形

出場者なし

固の形

- ①森下良男(静岡)・山下朝司(静岡)
- ②菅沼照子(栃木)・江波戸友子(栃木)
- ③井上靖彦(栃木)・金子智郎(栃木)

極の形

- ①渡邊龍治(宮崎)・甲斐浩二(宮崎)
- ②有田早苗(栃木)・植木良夫(栃木)
- ③大矢秀昭(東京)・安河内浩(東京)

柔の形

- ①横山悦子(福井)・大森千草(長野)
- ②伊福義雄(宮崎)・甲斐浩二(宮崎)
- ③江波戸友子(栃木)・菅沼照子(栃木)

護身術

- ①横山悦子(福井)・大森千草(長野)
- ②保科素(埼玉)・清家春夫(埼玉)
- ③加藤博(愛知)・大石鉄美(愛知)

五の形

- ①加古若子(岐阜)・今立篤子(岐阜)
- ②黒田美千子(岐阜)・長崎桂子(石川)
- ③家亀岩男(東京)・田倉幸夫(東京)

古式の形

- ①保科素(埼玉)・清家春夫(埼玉)
- ②今立篤子(岐阜)・黒田美千子(岐阜)
- ③清水正敬(東京)・野口宏水(東京)

年齢別体重別個人戦

男子の部

- M1 (30~34才) 66kg下 ①漆畑健(東京) ②駒宮圭吾(埼玉) ③田中信(静岡)・日下弥寿彦(東京)
- M1 73kg下 ①松本淳(滋賀) ②佐藤真生(宮城) ③林秀樹(宮城)
- M1 81kg下 ①勝部武(埼玉) ②登本茂芳(埼玉) ③菅野隆行(岩手)・二宮千明(東京)
- M1 90kg下 ①瀬尾幸夫(埼玉) ②上園勇作(東京) ③埴淵茂樹(静岡)・高林祐介(静岡)
- M1 100kg下 ①三谷健(神奈川)
- M1 100kg超 ①前田豊(東京) ②小金豊(埼玉) ③佐藤栄一(埼玉)・熊谷孝寿(秋田)
- M2 (35~39才) 73kg下 ①今嶋緑

記事の訂正とお詫び

前号の第一回大会メダリストの記事で、M7・90kg以下3位の彦素久仁雄(滋賀)氏について記載漏れがありました。訂正してお詫び申し上げます。

- 郎(大阪) ② 大山吉男(愛知) ③ 二宮理高(東京)・野々村光正(神奈川)
- M 2 81 kg ① 高村宗生(千葉) ② 岡本晃(愛知)
- M 2 90 kg ① 渡辺龍治(宮崎) ② 壇上竜二(愛知) ③ 齊藤一城(埼玉)・池田浩和(埼玉)
- M 2 100 kg ① 佐藤正忠(埼玉) ② 吉田真人(東京)
- M 2 100 kg ① 佐々木昌秀(埼玉) ② 猪爪一幸(埼玉)
- M 3 (40~44才) 60 kg ① 野秋宏明(静岡) ② 二宮唯晃(東京)
- ③ 福本敏巳(福井)・渡辺清人(静岡)
- M 3 66 kg ① 高山郁生(静岡) ② 青木太(茨城) ③ 齋藤孝滋(神奈川)
- M 3 73 kg ① 上田一美(愛知) ② 及川賢一(岩手) ③ 久家浩(埼玉)・片岡孝志(徳島)
- M 3 81 kg ① 金指邦浩(静岡) ② 石松浩行(千葉)
- M 3 90 kg ① 江戸誠一郎(青森) ② 大石鉄美(愛知) ③ 高橋洋一(埼玉)・片岡也崇志(埼玉)
- M 3 100 kg ① 齊藤信司(埼玉) ② 小池雅彦(埼玉) ③ 飯塚康明(東京)
- M 3 100 kg ① 佐藤伸一郎(東京) ② 窪田智之(愛知)
- M 4 (45~49才) 66 kg ① 長野寿一(東京) ② 今野英一(静岡) ③ 金子泰夫(東京)
- 73 kg ① 中込常昭(東京)
- ② 二本松敬太(埼玉) ③ 山本純士(埼玉)・森下良男(静岡)
- M 4 81 kg ① 田所英幸(栃木) ② 高橋健司(東京) ③ 大島嶺(大阪)・吉田安孝(京都)
- M 4 90 kg ① 水野博介(愛知) ② 前田文男(東京) ③ 美濃達也(岡山)
- M 4 100 kg ① 清野洋一(宮城) ② 加藤伸(千葉)
- M 4 100 kg ① 長須賀明彦(神奈川) M 5 (50~54才) 60 kg ① 福岡幹雄(神奈川) ② 三吉通晴(徳島)
- M 5 66 kg ① 守屋榮吉(岩手) ② 佐々木誠治(埼玉) ③ 田中茂(東京)・山口幸雄(栃木)
- M 5 73 kg ① 伊福義雄(宮崎) ② 井上曉(千葉) ③ 倉野祐一(岐阜)・佐々木秀人(山梨)
- M 5 81 kg ① 高橋和裕(神奈川) ② 太田明男(神奈川) ③ 赤司正友(東京)・大塚俊彦(埼玉)
- M 5 90 kg ① 卜部秀幸(愛知) ② 神園修一(東京) ③ 上木保男(千葉)・橋本英作(千葉)
- M 5 100 kg ① 維賀昌盛(兵庫) M 5 100 kg ① 古田毅(東京)
- M 6 (55~59才) 60 kg ① 大矢八平(兵庫)
- M 6 66 kg ① 井上博満(埼玉) ② 小泉基靖(東京)
- M 6 73 kg ① 井上英治(埼玉) ② 瀧津澄夫(千葉) ③ 長沢茂(埼玉)・清水俊夫(東京)
- M 6 81 kg ① 吉成隆杜(東京) ② 海野富夫(埼玉) ③ 忍田博(埼玉)・三上貴士(東京)
- M 6 90 kg ① 加藤博(愛知) ② 山本昭(兵庫) ③ 小池健三(埼玉)
- M 6 100 kg ① 熊井憲治(千葉) M 6 100 kg ① 久保雅昭(東京)
- M 7 (60~64才) 60 kg ① 加藤忠勝(東京) ② 田倉幸夫(東京) ③ 粗田盛良(長崎)・宮崎葛雄(大阪)
- M 7 66 kg ① 石田邦彦(神奈川) ② 岡本美臣(東京)・小西正弘(千葉)
- M 7 73 kg ① 二村雄次(愛知) ② 五十嵐徳英(東京) ③ 来田武(香川)・福島勝忠(長崎)
- M 7 81 kg ① 清家春夫(千葉) ② 三橋英夫(神奈川) ③ 大塚治城(神奈川)・荒木閑昌明(神奈川)
- M 7 90 kg ① 江崎寛(東京) ③ 大上敏幸(東京)
- M 7 100 kg ① 金子智郎(茨城) M 8 (65~69才) 60 kg ① 石黒金次(静岡) ② 永島健次郎(千葉)
- ③ 勝呂孝(埼玉)・福盛田立明(神奈川)
- M 8 66 kg ① 仁木征輝(岡山) ② 杉原尚(茨城) ③ 小林茂(埼玉)
- M 8 73 kg ① 内藤純(栃木) ② 黒澤正敬(埼玉) ③ 田中功一(栃木)・宮本斗成(大阪)

- M 8 81 kg ① 小嶋博美(愛知) ② 佐藤勝志(東京)
- M 8 90 kg ① 栗本忠弘(大阪) ② 曾田俊雄(埼玉)
- M 9 (70~74才) 60 kg ① 岡田庫二郎(兵庫)
- M 9 66 kg ① 吉田昭治(東京) ② 野口誠(茨城)
- M 9 73 kg ① 高橋勘十(岩手) ② 安河内浩(東京) ③ 野口宏水(東京)
- M 9 81 kg ① 中尾博(北海道) ② 尾辻邦治(東京) ③ 宮本隆(神奈川)・後藤勝己(福島)
- M 9 90 kg ① 森本唯行(神奈川) ② 政尚(埼玉)
- M 9 100 kg ① 奈良澄(愛知) M 10 (75~79才) 66 kg ① 大矢秀昭(東京)
- M 10 90 kg ① 原田照夫(埼玉) M 11 (80~84才) 73 kg ① 宮崎隆夫(神奈川) ② 真砂都留夫(東京)
- ③ 上島彬(大分)



巴戦で会場を沸かせた 花のM11 (80才以上) 73kg級トリオ
左から上島・真砂・宮崎の各選手

- ### 女子の部
- F 1 57 kg ① 吉野薫(東京)
- F 3 48 kg ① 山内久美(神奈川)
- F 5 78 kg ① 黒田三千子(岐阜)
- F 6 52 kg ① 加古若子(愛知)
- F 6 63 kg ① 今立篤子(秋田)
- F 7 57 kg ① 長崎桂子(石川)
- ### 年齢別体重無差別個人戦
- M 1 ① 前田豊(東京) ② 小林弘幸(東京) ③ 上園勇作(東京)・小金豊(埼玉)
- M 2 ① 猪爪一幸(埼玉) ② 瀧川興志(埼玉)
- M 3 ① 佐藤伸一郎(東京) ② 小池雅彦(埼玉) ③ 江戸誠一郎(青森)・森本正則(滋賀)
- M 4 ① 鈴木寛人(神奈川) ② 高橋健司(東京) ③ 前田文男(東京)
- M 5 ① 上木保男(千葉) ② 田島通(埼玉) ③ 神園修一(東京)
- M 6 ① 久保雅昭(東京) ② 熊井憲治(千葉) ③ 吉成隆杜(東京)・斎藤信司(埼玉)
- M 7 ① 二村雄次(愛知) ② 江崎寛(東京)
- M 8 ① 栗本忠弘(大阪) ② 宮本斗成(大阪) ③ 小嶋博美(愛知)・佐藤勝志(東京)
- M 9 ① 宮本隆(神奈川) ② 高橋勘十(岩手) ③ 安河内浩(東京)・森本唯

行(神奈川)

M 10 ①原田照夫(埼玉)

M 11 ①上島彬(大分)

F 4 ①岡本敦子(北海道)

F 5 ①上野和香子(北海道)

団体戦

男子 ①慶友倶楽部(東京)(宮崎、

錦木、×、山口、山田、熊井、大上、

清水、野口、森本)

②柔錬会(兵庫)(藤原、坊、平尾、平

井、雄賀、山本、中村、新田、岡田、

栗村)

③丸の内柔道倶楽部(東京)(上園、高

橋、久保、西川、チャイマン、三橋、清

家、五十嵐、尾辻、宮崎)

③埼玉接骨柔道同好会(埼玉)(登本、

新井、佐藤、高橋、長池、海野、小

沼、鈴木、村田、原田)

他参加チーム

本郷クラブ(東京)

(桑形、小金、上木、原、森

本、南、黒澤、永島、吉田、

安河内)

都庁クラブ(東京)

(本郷、小島、水島、前澤、

岡崎、岩田、本目、久保田、

高橋(政)、高橋(勘)

女子 参加チームなし

上尾の夕べ 懇親パーティ

11月26日 ベルアンジュ上尾に於いて



北海道・東北ブロック



パーティでご挨拶される蓮実大会会長



関東ブロック



東京ブロック



近畿ブロック



中国四国ブロック



九州ブロック



ニュージーランドブロック?

会員便り

この道険しい

中尾 博

(理事 北海道)

幼少の頃から柔道を始め終戦と同時に占領軍から、武道を解体されまして学校柔道も停止の暗黒時代が続き昭和二十四年やつと解禁になり武道からスポーツに変わりました。

過去を

振り返え
ると三十
年代には
十勝地方
で雪印乳
業チーム
を作り猛
練習して
強豪チー
ム次ぎ次
ぎ破り準優勝したときの感動を思い出します。

今では加齢と共に弱り衰えるのが順序と思つた時に、年令が30才以上であれば出場できるマスターズ柔道大会を知り、平成十四年に初めて日本第五回世界マスターズ柔道大会が発祥地講道館にて開かれ青い目した白人や黒人等



第二回日本マスターズ大会の会場で

五大陸から四〇国 出場人員九〇三名 各国の旗や横断幕 観覧席ではそれぞれの国民衣装で満員、その中で講道館の青畳の上で正々堂々試合が出来る幸せ、桧舞台の表彰金メダルを首に掛け 君が代が警視庁の音楽隊から流れ外人と初めてこの年令で対戦したと感じた時は体が震えました。

札幌に戻り北海道柔道連盟

から表彰され二重の喜びでした。順風満帆でした私に突然アクシデントが襲い急に胸が苦しく倒れ、救急車で特洲会病院に運ばれ病名は急性心筋梗塞と診断され 直ちに手術受けもう柔道人生は終わりと考え 担当医に恐る恐る聞くと トレーニングOKのサインを頂き嬉しく感動しました。

そして静岡県浜北市で第一回日本マスターズ柔道大会へ重量無差別級と81kg級で金銀メダルを獲得 4月二十八日全国高段者大会には理論共に

文武両道に亘り柔道を極めた醍醐先生が審判して頂き嘉納館長が座る目の前で得意な大外落して技術優秀賞 此の事が北海道新聞に大きく載り大病を克服し日本一、七十三才と知りNHK番組「おはよう北海道」に放映され嬉しいやら恥ずかしいやら 今度は追う様にUHBで放映となり本人もびつくり致しました。

又十一月には第二回日本マスターズ柔道大会が埼玉県上尾市体育館で黒帯が二本に切れるまで頑張り金メダルを獲得しました。

皆様にお逢い出来た事に感謝しております。これからもよろしくお願い致します。

大会に参加して

高橋 勤十

(理事 岩手県)

マスターズ柔道大会に参加するようになったのは、講道館発行の月刊誌「柔道」平成十四年十二月号「黒帯白帯」欄に掲載された日本マスターズ協会野口宏水会長の「生涯柔道を通しての草の根外交」と題する文章を読んで、生涯柔道を志す者として、私などの年代者はマスターズこそが似つか

わしいのではないかと思ひ、東京大会から参加してまいりました。

昨年の世界大会のツアーはこれまでにまして豊富な内容でした。まずワシントンの日本大使館に、加藤良三特命全権大使を表敬訪問したことです。通常有り得ないことであり、最高の榮譽と感激しました。ジョウジタウン大学での合同稽古、歓迎パーティ、まことに感慨深いものがありました。歓迎の辞をいただいた宮崎剛師範の慶応大学時代の活躍ぶりを想起したからです。蔵前国技館での第二回全国日本学生柔道優勝大会、そして翌年の大阪府立体育館での全日本学生柔道選手権大会



NY近代美術館 モネの睡蓮の前で 香川県の来田さん(左)と

静かな農村風景等を目のあたりにして、これがカナダかと飽かず眺めて参りました。ニューヨークでのミュージカル鑑賞「美女と野獣」は疲れも手伝って、うつらうつらしてしまつたことを後悔しています。大リーグ「ヤンキース対メッツ」観戦、松井選手がノーヒットに終わったのは残念でしたが、日本の野球選手がアメリカに行きたがる？のは解るような気がしました。

椎名道場での合同稽古、歓迎パーティは忘れ得ぬ思い出です。活躍している邦人のパティティには敬服しました。総務の永島健次郎さんにニュー

ヨークの一日を近代美術館から、地下鉄、エンパイアステートビル展望台まで等案内していただきました。確かなお土産と感謝しております。

翻って、第二回日本マスターズ柔道大会。新装なつた埼玉県立武道館、行き届いた大会運営等々、すばらしいの一語につきます。日本マスターズ柔道大会もい

よい軌道に乗ったものと関係各位のご努力に敬意を表します。

新しい年を迎えました。心身の衰えを痛感します。ついても健康に留意し、皆様と行動をともにしたいと願っております。本年もよろしくお願い申し上げます。

家族の応援と減量で 連続優勝

内藤 純

(理事 栃木県)

平成十七年十一月日本マスターズ埼玉大会にて65歳以上69歳未満M873kg級において

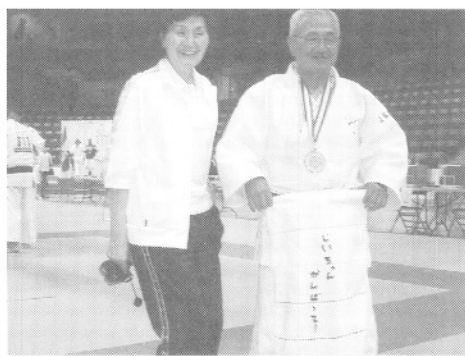
昨年に続き優勝することができました。大変嬉しく感激いたしました。

今回の大会は、

会場が近いこともあり、孫や息子娘や息子の嫁の応援があり優勝が出来たように思います。

試合の途中疲

れてくるともうだめかなと思うが応援の声が聞こえると「がんばらないと!」、という気持ち



“じいちゃん がんばって!”で金メダル

ちになり勇気づけられることがしばしばあり何とか優勝できみんなに感激でした。

実はこのマスターズ柔道大会に参加させていただくようになったのは、第五回世界マスターズ柔道大会が講道館で開催され会場が近いこともあり、私の道場の人たちが誘ったところ、数名の人達が参加したいとのことで大会に望みました。

当時、私は82kgありましたので1kg減量し、おかげで三位に入賞することができました。次の年はウィーンで開催とのことで今回も何とか入賞

と思ひ勇んで大会にのぞみましたところ、三位決定戦において負け、入賞することができませんでした。試合においては残念な結果でしたが、色々な国の選手との試合や異文化に触れる事ができ、大変有意義な大会でした。ま

た、このような大会では日本のマスターズの方々との交流も深まりマスターズ大会が益々盛んになっていく事と思ひました。

自分自身、このまま次の大会に出たのでは、歳は上の方になり相手も大きく、「入賞どころか一回戦も勝てなくなってしまうのでは・・・」と思ひ対策を考えたのが減量することでした。

さっそく帰国後73kg以下を目指し減量を始め、それまで山盛り二膳だったご飯を一膳に、大好きな「たい焼き」を時には我慢し、筋肉トレーニング、腕立て120回等行い半年で9kg減量することに成功した。

そして迎えた静岡開催の第一回日本マスターズ大会にて優勝することができました。その大会で富士山をかたどったメダルをいただいて、それを孫に見せたところ「じいちゃんかっこいい!」と喜んでくれました。

その後、世界マスターズ大会では三位に入賞でき。その間、試合も含め楽しい大会、楽しい観光や交流が出来たことは、開催国や開催県の皆さん、日本マスターズの会長さんをはじめ皆さんのおかげと心から

感謝しております。

終わりに、私の練習している所は栃木県足利市にあり財団法人昭徳館と申しまして、みんなで仲良く練習しています。足利は日本最古の学校のあるところでもあります。是非一度お越しください。

今年(2006年)フランス大会応援団一員として、皆様にお会いできることを楽しみにしております。妻 内藤和子

柔友よフランス(ツール) 大会で逢おう

杉原 尚

(理事 茨城県)



昨年九月中旬頃だったと思う、イタリアから電話が入った。ジャコモさんの奥様恭子さんからである。

電話の内容は、ジャコモがツール大会で極の形の競技に出たいが、ミラノには杉原さんほどのパートナーがいらない。是非パートナーになつてほしい。ミラノには大会の十日位前に来て二人で稽古して大会

にのぞんでもらいたい。ジャコモは杉原さんと二人でメダルをねらっているというもの。

私は一瞬言葉につまった。だが私が断ればジャコモさんは極の形の競技には出られないだろう。

この時嘉納治五郎師範の遺訓『精力善用・相助相譲・自他共栄』が脳裏を去来した。ヨーシ、不安ではあるが勇気を出して受けようとその時は電話を切った。

ジャコモさんとの出会いは、平成十五年に遡る。講道館夏季講習会(第一部)でのこと。松本龍弥先生の紹介で極の形のパートナーになった。

最終日の形の演技会では、二人で演技して合格点をもらいジャコモさんが習得証(初)、私が一年ぶり三回目の習得証で『修』には手が届かなかった。

昨年の世界マスターズ柔道カナダ(トロント)大会では十ヵ月ぶりに会場で再会し、親しく握手を交すことができた。固の形でジャコモ組は、銀メダルの榮譽に輝いた。我が中島・杉原組はおしくも入賞することができなかった。

ジャコモさんと私は、昨年夏の講習会でも再会、二人で五の形を演じた。ジャコモさんが習得証、私が七年ぶり二回目の習得証を頂戴した経緯がある。

電話を切った後は、了承したものの自分の心の整理が大変である。よく考えた揚げ句次のような理由づけをし、自分を再納得させることにした。

(1) 今年の四月は古希を迎える記念すべき節目の歳、思い出の多い飛躍の年にする。

(2) ツール大会へ健康管理に万全を期し、次期大会に繋げる健康づくりの土台にする。

(3) 外国の方からパートナーとして指名を受けたことに誇りを持ち、更に稽古を積みあげ吟味する。

(4) 通訳とイタリアにおける生活指導、観光案内などは奥様をお願いする。

(5) いつもご一緒する日本マスターズ柔道の皆さんとは同行できないが理解してもらおう。

秋にはすっかり心の整理もでき、十二月下旬にはイタリア



ローマ・コロッセオの前で

アへ下調べを兼ねて観光ツアーで出かけた。ミラノ・ヴェネツィア・フィレンツェ・ローマ、南イタリアではナポリ・

ポンペイなどを見学した。

イタリアには、人類共通の宝物『世界遺産』が最高の四十個所もあると言う。古代ローマ

の面影を残す建造物や町並、息をのむ美しさの芸術作品を鑑賞して回った。十二月二十五日(日)のク

リスマスの夜はスペイン広場からカヴール広場までローマの夜道を独りで歩いた。

カヴール橋上で空を見上げながらふとわれにかえた時、自分は今ローマに居るんだと夢のようであった。何も言わずにおくり出してくれた家族の事を思う時感謝の念でいっぱいになり、唯々感謝と感激の毎日であった。

イタリアはすばらしい国である。帰国後はイタリアへ行く一人旅の不安もすっかり薄れ、今では六月が楽しみに変わっている。

ただ、最後に気になることが一つ残っている。それはジャコモさんが言う入賞メダルのこと。大会のメダルは吟味した稽古を無心に積みあげ善(全力)を尽くして戦ったり、演技をした結果ついてくるものと私は思いたい。

いずれにしても二人で呼吸を合わせ、全力を出し切った後の結果は天に任すのみである。私の目ざすメダルは、人生後半の勝負、人生の勝利者としての金メダルなのである。

みんなそれぞれ心に誓うメダルを目ざして無理をせず、見栄をはずすフランス(ツール)大会に結集し、人生の半ば・後半を大いに頑張ろうではありませんか。

紅白の帯が輝く三四老(郎)

編集後記

交流の輪の広がりは、マスターズ柔道の大切な原点ですが、上尾でのパーティの雰囲気や、今回頂いたお便りからも国内・海外共にいろいろな形で輪の広がっているのが伺えます。柔道仲間のこと、柔道教室のこと、それにこの会報に関するご意見など、なんでも結構ですからお便りをお待ちしております。

今回の写真で第二回大会に関するものは全て宮本斗成会員(大阪府)



(写真)のご好意によるものです。大変助かりました。そして、又一つ輪が広がりました。(K・N)

(題字は野口会長の揮毫です)

第八回世界マスターズ大会

六月二十七日〜七月一日 フランス・ツール市で

本年の第八回世界マスターズ選手権大会は、パリの南西部(TGV)で1時間30分位のツールで開催されます。日本マスターズ協会では、揃って大会に参加するツアーを企画中です。大会後はフランス特に南フランス・プロバン

ス地方を訪問。数々の世界遺産に触れ、自然、歴史、文化を満喫し、パリでは日本文化会館を訪問して、フランス道場で生涯柔道を通しての草の根外交を楽しんで参りましょう! 詳細案内は、三月頃いたします。

2006 ツール大会 概要

6月26日(月) 登録
27日(火) 形の競技
28日(水) M7~11、F5~11の重量別試合
29日(木) M3、4、F1~4の重量別試合
30日(金) M1、2の重量別試合
7月1日(土) M、Fの重量無差別試合、団体戦



場所: Centre Municipal Des Sports, Tours

* 登録、計量は競技日の前日までに済みます